

# 2023 年度 自己点検・評価表

実施日：2024 年 3 月 29 日

学校名：トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

# 目 次

1. 学校の教育目標.....	1
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 .....	2
3. 評価項目の達成及び取組状況 .....	9
1 教育理念・目標 .....	9
2 学校運営 .....	10
3 教育活動 .....	12
4 学修成果・教育成果 .....	14
5 学生支援 .....	16
6 教育環境 .....	18
7 学生の受入れ募集 .....	19
8 教育の内部質保証システム.....	20
9 財務 .....	21
10 社会貢献・地域貢献 .....	22
11 国際交流 .....	23

## 1. 学校の教育目標

本校では、医療福祉の原点である愛と奉仕の精神を基本として、少子高齢化社会において求められる医療・福祉・保健に貢献できる人材の育成を目指している。

また、日本語学科は日本の高等教育機関(大学・専門学校等)に入学を希望する外国人留学生に対して、日本語教育及び高等教育を受けるために必要な基礎科目の教育を行い、併せて国際交流・国際社会に貢献する人材を育成することを目指している。

このような教育理念を実現するため、ディプロマポリシーを以下のとおり定めている。

### <ディプロマポリシー>

本校では、学則で定める修業年限以上在籍し、各学科所定の単位を修得するとともに、教育理念に基づいた以下のような力を身につけた者に対して、卒業を認定する。また、本校設置の課程のうち修業年限が2年以上かつ総授業時数1,700時間以上の学科を修了した者には、その課程の専門士の称号を授与する。

- 1)医療・福祉・保育の現場で必要とされる実践的・専門的能力を身に付ける。
- 2)社会的・職業的自立に必要な能力や態度を身に付ける。
- 3)豊かな心(他人を思いやる心や献身的な心 など)を身に付ける。

日本語学科においては

- 1)日本の高等教育機関等において、十分に勉学できるだけの日本語能力を身に付ける。
- 2)日本社会の一員としてルールを遵守し、日本の文化・習慣を理解する。
- 3)豊かな心(他人を思いやる心や献身的な心 など)を身に付ける。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 職業実践専門課程の認定校であることを踏まえ、実践的な職業教育を通して専門的知識を身につけた人材を育成するため、次の目標値を設定する。

(1) 授業アンケートの総合評価判定 S

(2) 学科が設定する資格の合格率 100%または前年度の数値以上

(3) 学生アンケート「定期試験や検定合格に向けて、自主的に自己学習を行っている。」

判定 S

### 【結果】

(目標1) 授業アンケートの総合評価判定 S

※授業アンケートの総合評価は判定 S で目標を達成できた。クラス別では下表のとおり、一部のクラスで判定が A となった。

来年度から所属上長による授業評価（授業観察）を実施する。多様な観点から授業を検証し、授業の質の改善・向上を図るとともに、学生の授業に対する満足度を高めていく。

	総合評価判定	
	S	A
介護・保育・臨床 (全 10 クラス)	8 クラス	2 クラス

(目標2) 学科が設定する資格の合格率 100%または前年度の数値以上

※介護福祉士の合格率は 92.9%であった。前年より合格率は低下したものの、留学生は 14 名中 11 名が合格し、留学生の合格率は高い数値で安定してきた(日本人学生は全員合格)。前年同様、放課後に補習を実施するなど、介護教員の国試対策の取り組みが徐々に成果として表れてきている。

保育士、幼稚園教諭については今年度も 100%を達成できた。

臨床工学技士の合格率は 92.9%であった。4 年連続 100%にはならなかったが、改善計画に沿った取り組みは行うことができた。来年度に向けて改善計画を見直していく。

	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
介護福祉士	92.9%	93.6%	76.0%	77.1%
保育士、幼稚園教諭	100%	100%	100%	100%
臨床工学技士	92.9%	100%	100%	100%

(目標3)学生アンケート「定期試験や検定合格に向けて、自主的に自己学習を行っている。」

判定 S

※学生アンケートの結果、判定は A(肯定的評価 86.7%)であった。判定 S という目標は達成できなかったが、肯定的評価の割合は前年度に比べると上昇した。(下表<過去5年の推移>参照)

学科やクラスで評価に大きな差がみられるため、来年度は担任任せにしない学科全体での指導が必要である。

<過去5年の推移>

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
判定	A	A	A	A	A
肯定的評価	86.7%	81.3%	88.8%	86.6%	85.7%
評価 S の クラス数	6	3	6	4	3
評価 A の クラス数	1	3	3	3	4
評価 B 以下の クラス数	3	4	1	3	2

2 社会的・職業的自立に必要な能力や態度を身につけるため、次の目標値を設定する。

(1) 退学率 5% (1年:6% 2年:4% 3年:4%)

(2) SHR 欠席率 1.00 人/日未満

(3) 学生アンケート「クラスの一員として、周りのことを考えて行動している。」判定 S

(4) 学生アンケート「自ら率先して挨拶をしている。」判定 S

(5) 学生アンケート「掃除を積極的に行っている。」判定 S

### 【結果】

(目標1) 退学率 5% (1年:6% 2年:4% 3年:4%) (日本語学科除く)

※退学率は 7.6% で目標を達成することができなかった。1 年生の退学率が前年度に引き続き高い数値となっている。退学理由としては、「修学意欲低下による進路変更 5 名」、「学校生活不適應による不登校 5 名」、「学力不振による退学 3 名」である。

例年、新入生が孤立しないよう、新入生歓迎会やスポーツクラブの活動を通して同級生や先輩との交流を増やすなど対策をとっているが、退学率が改善するほどの効果は表れていない。

多様化する学生に対して、今までのようにクラス担任を中心とした対応だけでなく、学校全体で組織的に支援できる体制を整え、個別にきめ細やかな対応をすることで一人でも退学者を減少させる。

学年	年度当初	退学者数	退学率
1 年	74	10	13.5%
2 年	68	1	1.5%
3 年	30	2	6.7%
全体	172	13	7.6%

(目標2) SHR 欠席率 1.00 人/日未満

※SHR 欠席率は 0.94 人/日で目標を達成することができた。欠席・遅刻が多かった学生については、引き続き個人面談や家族への連絡等を密にして対応していく。

(目標3) 学生アンケート「クラスの一員として、周りのことを考えて行動している。」判定 S

※学生アンケートの結果、判定は S で目標を達成することができた。周りのことを考えて行動することは、他者の考え方や立場を理解する力、協力・協働していく力を高めることになるため、介護・保育・医療に携わる者にとって非常に重要である。今後もグループワーク、実習、社会貢献活動等を通してこのような能力を学生が身につけられるよう取り組んでいく。

(目標4)学生アンケート「自ら率先してあいさつをしている」判定 S

(目標5)学生アンケート「掃除を積極的に行っている」判定 S

※学生アンケートの結果、「自ら率先してあいさつをしている」の判定は S で目標を達成、「掃除を積極的に行っている」の判定は A で目標を達成することはできなかった。

前期アンケートの時点で2つとも評価が A であったため、11月の2週間、掃除・挨拶強化週間を設定し、担任から掃除・挨拶の大切さを伝えるとともに、教室内に啓発ポスターを掲示した。また学生指導係の教職員が、放課後、各教室を点検し、整理整頓できていないクラスには担任を通して学生に指導した。その結果、教室の机や椅子が整理整頓されるなど一定の成果が得られた。

次年度は学生指導係において、年度初めに指導計画を立て、年間通して継続的に指導を行うとともに学生に対して掃除・挨拶の重要性をしっかりと伝えていく。

3 日本語学科において、日本の高等教育機関等で十分に勉学できるだけの日本語能力を身につけるため、次の目標値を設定する。

(1)授業アンケートの総合評価判定 S

(2)高等教育機関等への進学率 100%

(3)日本語能力検定試験 N2 合格率 100%または前年度の数値以上

(4)学生アンケート「日本語が上手になるように、家で宿題以外にも勉強をしている。」

判定 S

(5)学生アンケート「宿題は必ず期限までに出している。」判定 S

### 【結果】

(目標1)授業アンケートの総合評価判定 S

※授業アンケートの総合評価は判定 S で目標を達成できた。クラス別では下表のとおり、一部のクラスで判定が A となった。

	総合評価判定	
	S	A
日本語学科 (全6クラス)	3クラス	3クラス

来年度から所属上長による授業評価(授業観察)を実施する。多様な観点から授業を検証し、授業の質の改善・向上を図るとともに、学生の授業に対する満足度を高めていく。

(目標2) 高等教育機関等への進学率 100%

※進学率 100%は達成できなかったものの昨年度より進学率は上昇した(昨年度 90.5%)。多くの卒業予定者の就職先を確保するために早期に活動を開始したことで、進学先は6月ごろから決定し始め、良い流れを作ることができた。

卒業者数	進学者数	就職者数		未定者数	進学率
		技術・人文・国際業務	特定技能		
75	70	2	1	2 (進学希望 1) (就職希望 1)	93.3%

(目標3) 日本語能力検定試験 N2 合格率 100%または前年度の数値以上

※N2の卒業生合格率は14.7%で目標を達成することができなかった。不合格の学生は漢字が読めないことがやはり大きく、読解の点数も伸びていなかった。指導については漢字に重点を置いて授業を行っていたが、やはり自宅での復習をしている学生としていない学生の差は大きい。授業の中で漢字以外の時間であっても漢字を読ませるようにするなどの工夫が必要である。

卒業者数生	N2 受験者数	N2 合格者数	N2 合格率	卒業生 N2 合格率
75 (21)	29 (10)	11 (8)	37.9% (80.0%)	14.7% (38.0%)

( ) 内は昨年度の数値

(目標4) 学生アンケート「日本語が上手になるように、家で宿題以外にも勉強をしている。」判定 S

※学生アンケートの結果、判定はSで目標を達成することができた。しかし教員の所感としてはSの学生はほぼいない。学生のメタ認知能力が低いことも学習がはかどらない要因だと思われる。

(目標5) 学生アンケート「宿題は必ず期限までに出している。」判定 S

※学生アンケートの結果、判定はSで目標を達成することができた。しかし実際は期日が遅れて宿題を提出する学生は多数おり、メタ認知能力が低いと考えられる。学生が各自で提出率や遅れな



どを確認できるようにする工夫が必要である。また、課題提出が遅れる学生はどのクラスでも固定されがちなので、必要であれば主任面談等を行い対応していく。

4 学生数減少に伴い経費削減を図る取り組みを教職員全員で共有する。

(1)物価高騰の影響を考慮し、前年度経費に対し 3.1%増までに抑える。

(2)業務のオンライン化などにより不必要な紙の印刷・購入を抑える。

#### 【結果】

(目標 1) 物価高騰の影響を考慮し、前年度経費に対し 3.1%増までに抑える。

※昨年同時期の経費を比較すると留学生の紹介手数料、学生負担費用を除くと 4.2%増となった。これは光熱費の高騰(8.3%)やコピー用紙等の購入量、単価の値上がり等で、消耗品約 50%増などが原因と考えられる。次年度は、物価の高止まり、コロナ明けによる経済活動が活発になることにより、学校運営費用の増加が見込まれる中、学生数の減少による収入減のため厳しい経営状況となることは免れない。経費削減の意識をさらに強く持つ必要がある。

(目標 2) 業務のオンライン化などにより不必要な紙の印刷・購入を抑える。

※各種アンケートの実施に際して、オンラインによるアンケートを実施した。以前は専用のマークシートを購入しアンケートを実施していたので、オンライン化により専用マークシートの購入が不要となった。

5 広報募集委員会の定期的な開催による情報共有と状況に応じた柔軟な募集活動を通して、入学者の増加を図る。また、全教職員の募集活動に対する共通理解を深め、募集活動への積極的な関与を働きかける。

(1)日本人入学者数 介護福祉学科 36 名、こども保育学科 24 名、臨床工学科 24 名

(2)日本語学科 在留資格認定証明書(COE)交付率 90%

#### 【結果】

(目標 1) 日本人入学者数介護福祉学科 36 名、こども保育学科 24 名、臨床工学科 24 名

※オープンキャンパスへの参加人数を増やすため、昼食付のスペシャル会を 5 回、6 月までの会で午前・午後の 2 部制を 3 回実施したり、あらかじめ全日程の体験授業内容を決

めて WEB 広告や DM で広報したり、年間を通して計画的な募集活動に取り組んだが、4 月～6 月まで高校生がほとんど動かず、受験対象者の参加率は 16%減少した。

体験授業の内容の充実やスタッフ学生の育成に力を入れたことで参加者からの受験者数（歩留まり）は介護 50→56%、保育 40→58%、臨床 17→43%、全体 40→54%と昨年と比べて若干の改善がみられたが、入学者の目標人数に対する達成率は介護 81%、保育 63%、臨床 46%（留学生、委託訓練生を除く）という結果となり、昨年同様に募集状況を好転させることはできなかった。オープンキャンパスのリピーターの獲得に課題が残った。

2025 年度生の募集活動はすでに始まっている。現在、オープンキャンパスのリピーターを増やすこと、高校ガイダンスや学校ガイダンスでの住所獲得数を増やすこと、WEB 戦略をプロの業者に委託することなどを改善策として実施している。

（目標 2）日本語学科 在留資格認定証明書（COE）交付率 90%

2023 年 10 月生は 64%（7 名/11 名）、2024 年 4 月生は 45%（17 名/38 名）という結果だった。入管が大変厳しく、不交付の理由が示されないため、改善策が手探りの状況だが、引き続きエージェントとの関係を良好に保ちながら、申請書類のチェック体制を強化し、COE 交付率を 90%にすることを目指す。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標				自己評価	エビデンス
1	1	中項目	理念・目的・育成人材像(教育理念(建学の精神)・目的・目標、育成人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか)		
1	1	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	寄附行為、学則、学生便覧、ディプロマポリシー、HP
1	1	2	学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	4	学生便覧、HP
1	1	3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	4	学生便覧、HP
1	1	4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	4	HP
1	2	中項目	教育の特色(社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いていますか)		
1	2	1	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者とそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	4	学生便覧、ディプロマポリシー、教育課程編成委員会議事録
1	2	2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか(学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか)	3	教育課程編成委員会議事録
1	2	3	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	学生便覧、ディプロマポリシー、シラバス、HP

<自己評価>適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

#### ① 現状と課題

- ・本校では、教育理念・目的・育成人材像を明確に定め、年度初めに教職員会議において教職員に対し周知徹底している。学生に対しては新入生オリエンテーションで、保証人(保護者)に対しては入学式後のご家族向けオリエンテーションで教育理念等の説明を行っている。学外の方に対してはホームページを通して周知・公表している。
- ・ディプロマポリシーにおいて卒業するために必要な知識と技術のレベルを明確にしている。

#### ② 今後の改善方策

- ・特になし。

#### ③ 特記事項

- ・本校が設置する4学科の内3学科「介護福祉学科」、「こども保育学科」、「臨床工学科」は文部科学省により職業実践専門課程の認定を受けている。
- ・年2回の教育課程編成委員会により社会のニーズを知ることで、現場で活かせる実践力を備えた人材の育成に努めている。

2 学校運営				自己 評価	エビデンス
2	1	中 項 目	運営方針(運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか)		
2	1	1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	事業計画書
2	1	2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	3	教職員会議資料、講師会資料
2	2	中 項 目	事業計画(事業計画を作成し、執行しているか)		
2	2	1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか	3	教職員会議資料
2	2	2	学校の年間スケジュールはあるか	4	年間スケジュール表 授業日程表
2	3	中 項 目	運営組織(運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか)		
2	3	1	寄附行為、理事会会議規則等(法人)、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会(法人)、学校の運営会議等が開催されているか	4	寄附行為、組織規程
2	3	2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	組織規程、校務運営規定
2	3	3	組織機能図があるか	4	組織図、校務分掌
2	3	4	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか	3	運営会議議事録、校務運営規定
2	3	21	出退勤管理簿があるか	4	出勤簿、就業規則
2	3	22	教職員の健康診断がされているか	4	教職員健康診断の案内、就業規則、健康診断結果報告書
2	3	41	施設設備の保守・管理が定期的に行われているか	4	施設設備保守・管理(作業報告書)
2	4	中 項 目	教職員の評価・育成(教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか)		
2	4	1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	関係法令、設置基準、介護福祉士養成施設設置基準、日本語教育機関の告示基準
2	4	2	現に教員数が充足していない場合、採用活動を行っているか、または、教員資格等取得に向けた教育・指導を行っているか	4	各種教員研修派遣
2	4	3	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	学生による授業アンケート
2	4	4	教員の組織体制を整備しているか	4	組織図、講師会議事録
2	4	21	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	各種教員研修派遣 研修報告書
2	4	22	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)	3	研修報告書

2	4	23	教育の成果(学修結果)に基づく教員面接を実施しているか	3	面談予定表
2	4	24	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて組織的・計画的に受講させているか	3	研修報告書
2	4	25	教員に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか(教職員研修計画の作成)	2	
2	4	41	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4	講師会議事録
2	5	中項目	人事・給与制度(人事・給与に関する制度を確立しているか)		
2	5	1	人事に関する制度を整備しているか	3	就業規則
2	5	2	給与に関する制度を整備しているか	3	給与規程 退職金規程 出張規程
2	5	3	昇給・昇格制度は文書化されているか	2	給与規定
2	5	4	採用制度は文書化されているか	1	
2	6	中項目	情報システム(情報システム化等による業務の効率化が図られているか)		
2	6	1	情報システム化等による業務の効率化が図られているか(情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)	3	PC 配置図、ネットワーク構成図

<自己評価> 適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

- ・教育方針及び教育目的に沿った運営方針並びに事業方針を年度当初の教職員会議で全員に周知するとともに、年間を通じた企画会議、運営会議において理解の状況、進捗状況を把握している。今後は、中期事業計画を策定することにより、中長期的な展望を持つことが必要と考える。
- ・自己申告による目標管理制度を導入し、年2回の所属上長(学校長、教務部長、事務課長)による教職員面接を行うことにより個々人の取り組み状況を確認し、必要に応じて助言している。
- ・授業評価については、所属上長(学校長、教務部長、学科長)等による授業評価・評価体制は整っていないが、授業評価の年間計画書は作成した。

### ② 今後の改善方策

- ・授業評価の年間計画に基づいて、授業評価実施組織体制の整備や授業評価シートの作成を実施し、所属上長による授業評価・評価体制を確立する。

### ③ 特記事項

特になし。

3 教育活動				自己評価	エビデンス
3	1	中項目	目標の設定(教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか)		
3	1	1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4	学生便覧、カリキュラムポリシー、HP
3	1	2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	学則(別表1 教育課程及び授業時間数)・カリキュラムマップ
3	1	3	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4	ディプロマポリシー、学生便覧、学則、HP
3	2	中項目	教育方法・評価等(各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか)		
3	2	1	教育理念・到達目標に沿って学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	学則(別表1 教育課程及び授業時間数)、シラバス、学生便覧、カリキュラムマップ
3	2	2	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4	シラバス
3	2	3	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	1	
3	2	4	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	4	シラバス、HP
3	2	21	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容およびその評価方法、評価項目、手段、スケジュールは適切か)	1	
3	2	22	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	1	
3	2	23	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	4	授業アンケート、卒年次生アンケート
3	2	24	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	4	授業アンケート結果、自己申告書
3	2	41	カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか	2	
3	2	42	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4	教育課程編成委員会議事録
3	2	81	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	シラバス
3	2	82	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	4	実習要綱、シラバス
3	2	83	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、演習・実習等を行っているか	4	講師派遣承諾書
3	2	84	企業・施設等での職場実習(インターンシップ含む)があるか	4	実習計画書、実習生受入承諾書、実習報告書、実習報告会資料

3	3	中項目	成績評価・単位認定等（成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか）		
3	3	1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	学生便覧（授業に関わる細則）、卒業判定会議議事録
3	3	2	学生や保証人（保護者）に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	3	学生便覧（授業に関わる細則）
3	3	3	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4	学生便覧、シラバス、進級・卒業判定会議議事録
3	3	4	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	3	実習評価表
3	4	中項目	資格・免許取得の指導体制（資格・免許取得のための指導体制があるか）		
3	4	1	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	4	学生便覧、シラバス、成績証明書、カリキュラムマップ
3	5	中項目	キャリア教育等（基礎的・汎用的能力（① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか）		
3	5	1	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	3	シラバス
3	5	21	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	ガイダンス報告書

＜自己評価＞適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

- ・教育理念・到達目標に沿って各学科のカリキュラムは編成されている。カリキュラムマップを作成したことにより、ディプロマポリシーとカリキュラムの整合性および到達目標がより明確となり学生の学修への動機付けが高まることが期待できる。
- ・授業評価の体制や授業観察等による授業評価はできていないが、授業評価の年間計画書を作成した。

### ② 今後の改善方策

- ・授業評価の年間計画に基づいて、所属上長による授業観察を実施する。また、評価結果を教員面談等でフィードバックすることで、授業の改善につなげていく。

### ③ 特記事項

- ・各学科の教育課程はそれぞれ次の指定規則等に則っている。

介護福祉学科……介護福祉士養成施設指定規則

こども保育学科……近畿大学九州短期大学の教育課程（近畿大学九州短期大学との併修）

臨床工学科……臨床工学技士養成所指定規則

日本語学科……日本語教育機関の告示基準

・具体的な教育内容の目標値として、次の項目を設定している。(重点目標1)(重点目標3)

<介護・保育・臨床>

- ・授業アンケートの総合評価判定 S
- ・学科が設定する資格の合格率 100%または前年度の数値以上
- ・学生アンケート「定期試験や検定合格に向けて、自主的に自己学習を行っている。」判定 S

<日本語学科>

- ・授業アンケートの総合評価判定 S
- ・高等教育機関等への進学率 100%
- ・日本語能力検定試験 N2 合格率 100%または前年度の数値以上
- ・学生アンケート「日本語が上手になるように、家で宿題以外にも勉強をしている。」判定 S
- ・学生アンケート「宿題は必ず期限までに出している。」判定 S

4 学修成果・教育成果				自己評価	エビデンス
4	1	中項目	学修成果(各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか)		
4	1	1	コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4	成績一覧表
4	1	2	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか(測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か)	4	学生便覧、シラバス
4	2	中項目	就職率(就職率の向上が図られているか)		
4	2	1	就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか)	4	就職関連指導シラバス、学校などの行う無料職業紹介事業報告
4	2	2	学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか	2	
4	2	3	学生の就職活動に関する記録がなされているか	4	就職活動報告書
4	2	4	対外部に向けた就職実績を公表しているか(パンフレット・HP等)	4	パンフレット、HP
4	3	中項目	資格・免許の取得率(資格・免許取得率の向上が図られているか)		
4	3	1	資格取得率の向上が図られているか(目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか)	4	講師会資料
4	3	2	資格・検定・コンペに関する目標を設定したか	4	自己点検・評価表(重点目標)
4	3	3	資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか	4	教職員会議資料(2023年度重点目標)



4	3	4	資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか	4	2023 年度自己点検・評価表
4	3	5	資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか	4	HP(職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式 4))
4	4	中項目	社会的評価(卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか)		
4	4	1	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか)	3	直近 3 年間の卒業生の離職率調査

＜自己評価＞適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・2023 年 2 月に直近 3 年間の卒業生の動向について調査を行い、離職状況を確認した。就職後に悩みを持つ卒業生に対しては、対面や電話、SNS 等の方法で個別に相談を受け、対応している。今後も引き続き細やかな個別の対応を行いながら、全体を把握する方法を検討する。

### ② 今後の改善方策

・新型コロナの影響がなくなり、2024 年度から同窓会の活動が再開される。今までより同窓会としての組織を強化する方向で動き始める予定である。その同窓会を通して卒業生の動向を把握し、卒業後の支援体制を整える。また、活躍している卒業生を特論授業で在校生に、また、オープンキャンパスで高校生に紹介し、それぞれの職業の魅力を伝えてもらえるようにする。

### ③ 特記事項

・各学科の教育到達レベルは次のとおりである。(重点目標1)(重点目標3)

介護福祉学科……………国家試験合格

※経過措置として不合格の場合でも、卒後 5 年間は介護福祉士となる  
ことができる。この間に国家試験に合格するか、卒後 5 年間続けて介  
護等の業務に従事することで介護福祉士の登録が継続できる。

こども保育学科……………ディプロマポリシーに基づいた技能や知識の修得

(卒業と同時に保育士、幼稚園教諭 2 種の資格を取得できる)

臨床工学科……………国家試験合格

日本語学科……………日本語能力検定試験 N2 合格

・就職(進学含む)に関しては各学科とも 100%の就職率を目標値として設定している。

・2023 年度の就職状況は以下のとおりである。(2024/3/29 現在)

介護福祉学科 98%、保育社会福祉学科 92%、臨床工学科 86%

5 学生支援				自己評価	エビデンス
5	1	中項目	修学支援(学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか)		
5	1	1	学生への修学支援を適切に行っているか	4	HP
5	2	中項目	就職等進路(就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか)		
5	2	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれはきちんと学生や保証人(保護者)に周知されているか)	4	組織図・校務分掌
5	3	中項目	学生相談(学生相談に関する体制は整備されているか)		
5	3	1	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)	2	学生便覧
5	3	2	学生の面談・相談記録があるか	4	クラス運営報告書
5	4	中項目	学生生活(学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか)		
5	4	1	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	募集要項、学生便覧 奨学金説明会資料
5	4	21	学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	健康診断案内、学則、 学生便覧
5	4	41	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	月一スポーツ、月一食堂 案内
5	4	42	学生の生活環境への支援は行われているか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)	4	パンフレット
5	5	中項目	中途退学への対応(退学率の低減が図られているか)		
5	5	1	退学率の低減が図られているか(受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか)	2	退学率の推移表
5	5	2	退学率の目標を設定しているか	4	教職員会議資料 自己点検・評価表
5	5	3	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4	教職員会議資料
5	5	4	退学者数を公表しているか	4	HP(職業実践専門課程 の基本情報について(別紙様式4))
5	6	中項目	保証人(保護者)との連携(保証人との連携体制を構築しているか)		
5	6	1	保証人(保護者)と適切に連携しているか(保証人のニーズを把握しているか)	4	ご家族向けガイダンス資料、 個人成績表
5	6	2	保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか	1	
5	7	中項目	卒業生・社会人支援(卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか)		
5	7	1	卒業生への支援体制を整備しているか(再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか)	2	

5	7	21	卒業生への卒業教育等の支援体制はあるか(卒業生への講習・研修を行っているか)	2	
5	7	41	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	パンフレット、HP

＜自己評価＞適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

① 現状と課題

- ・クラス担任制をとっており、現在学生数も少ないことから学生の状況を把握しやすく、クラス運営、学生生活、就職活動、保証人(保護者)との連携など、学生にあった対応が個別にできている。
- ・問題のある学生に対しては保証人(保護者)と密に連絡を取りあい問題行動が改善できるよう取り組んでいるが、特に問題のない学生の保証人(保護者)とは関わり合いがないのが現状である。
- ・障害のある学生に対して合理的配慮の提供を行うにあたり、組織的な対応はできていない。
- ・中途退学の対応について、昨年度に続いて1年次の退学率が高く改善できていない。

② 今後の改善方策

- ・保証人との連携について具体的にどのような形で実施できるか、運営会議や学科長会議等で検討する。
- ・障害のある人に対して合理的配慮の提供を行うにあたり支援体制を早急に整える。
- ・退学率の低減を図るため、今までのようにクラス担任を中心とした対応だけでなく、学校全体で組織的に支援できる体制を整え、個別にきめ細やかな対応をできるようにする。
- ・卒業生の卒業教育の支援体制は学科により差があるので、支援体制を整えることを検討する。

③ 特記事項

- ・2024年4月から障害者差別解消法の改正に伴い、私立学校でも合理的配慮の提供が義務化される。
- ・退学率については次の目標値を設定している。(重点目標2)  
退学率 5% (1年:6% 2年:4% 3年:4%)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた「月一食堂」を再開した。今年度は5月と8月に実施し、それぞれ50名ほどの学生が参加し留学生と日本人学生の交流の機会となった。今後も月一スポーツ同様、学生生活を勉強だけでなく、より楽しく思い出のあるものにするために、定期的な開催を目標とし、学生間の交流を深めていく予定である。

6 教育環境				自己評価	エビデンス
6	1	中項目	施設・設備等（施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか）		
6	1	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか）	4	関係法令、各施設設置基準
6	1	2	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4	関係法令、各施設設置基準
6	1	3	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4	関係法令、各施設設置基準
6	1	21	分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか	4	学生便覧、ポスター
6	1	22	学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか	4	定期清掃写真報告書、施設設備安全点検
6	1	41	施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか	4	ボイラー・空調・電気工作物点検結果報告書、貯水槽清掃消毒報告書、自動ドア定期点検報告書
6	2	中項目	学外実習、インターンシップ等（校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか）		
6	2	1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	実習指導要領
6	2	2	実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備されているか	4	実習指導要領
6	3	中項目	防災・安全管理（防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか）		
6	3	1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	消防計画、南海トラフ地震防災規定、防災マニュアル、気象警報発令時の休講について
6	3	2	防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか	4	セコム点検報告書、消防用設備等点検結果報告書、消防計画
6	3	21	定期的に防災訓練を実施しているか	4	防災訓練実施要項、防災訓練アンケート結果
6	3	41	学校における安全管理の整備を行っているか	4	防災マニュアル、施設設備安全点検チェック表、盗難時対応マニュアル

<自己評価> 適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・全体的に教育環境は整っているが、定期的に施設・設備を見直し、適宜、更新や修繕を進めることが大切である。

### ② 今後の改善方策

・特になし。

### ③ 特記事項

・特になし。

7 学生の受入れ募集				自己評価	エビデンス
7	1	中項目	学生募集活動(学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか)		
7	1	1	学生募集活動は、適正に行われているか	2	校務分掌、パンフレット、ガイダンス報告書、街頭配布活動報告書、OC用説明資料
7	1	2	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか	4	アドミッションポリシー、パンフレット、募集要項、HP
7	1	3	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	4	パンフレット、HP
7	1	4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか	4	パンフレット、募集要項
7	1	21	入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制ができていますか	3	校務分掌、HP
7	1	22	学校説明会等による情報提供(育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報)を行っているか	3	OC 入試ガイダンス資料、OC 保護者ガイダンス資料
7	1	23	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	4	入学前課題
7	2	中項目	入学選考(入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか)		
7	2	1	学校案内等には選抜方法が明示されているか(入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか)	4	募集要項、HP
7	2	2	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4	入試基準、選考方法、入試判定会議用資料
7	3	中項目	学納金(学納金は妥当なものとなっているか)		
7	3	1	学納金は妥当なものとなっているか	4	募集要項、HP
7	3	2	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	3	OC マネープラン資料

<自己評価> 適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・高校生の数が減る中、毎年厳しい募集状況となっている。昨年の結果を踏まえ、オープンキャンパスの開催方法や内容等を変更したり、SNS での発信に力を入れたりしたが、今年度も入試の結果は好転せず、入学者は増加しなかった。

### ② 今後の改善方策

・10月の第1回入試の終了後、2023年度の募集活動を振り返り改善策を検討し、すでに次年度の募集活動を開始している。改善策の一つは、昨年の学校関係者評価委員会でWEB戦略は専門のプロに任せるべきというご指摘をいただいたところで、2024年度は専門の業者に委託し、WEB戦略を展開し始めている。

### ③ 特記事項

・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、自粛に慣れた高校生が4月から6月には動かず、1回のオープンキャンパスで進学を決めてしまう傾向が強くなっている。春までの間に本校のオープンキャンパスに参加してもらうためには参加のハードルを下げる必要があり、現在、時間を大幅に短縮した「ちょこっとオープンキャンパス」を実施し、参加者の確保に努めている。(重点目標5)

8 教育の内部質保証システム				自己評価	エビデンス
8	1	中項目	関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか)		
8	1	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	専修学校設置基準
8	1	2	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	組織図、校務分掌
8	1	3	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	3	危機管理(個人情報保護に関する規則、情報セキュリティ対策)、セクシャルハラスメントの防止等に関する指針
8	2	中項目	個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか)		
8	2	1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	個人情報保護に関する規程、情報セキュリティ対策
8	2	2	個人情報保護規程が文書化されているか	4	個人情報保護に関する規程
8	2	3	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができているか	2	
8	3	中項目	学校評価(自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか)		
8	3	1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	4	自己点検・評価表
8	3	2	自己点検・評価報告書にまとめているか(自己点検・評価報告書があるか)	4	自己点検・評価表
8	3	3	自己点検・評価の組織があるか	4	学校評価実施規程
8	3	21	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4	学校関係者評価委員会議事録、委員会名簿
8	4	中項目	改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか)		
8	4	1	自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか	3	教職員会議資料
8	4	2	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	卒業生就業・離職状況調査報告書

8	4	3	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4	自己点検・評価改善計画書
8	4	4	自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	4	自己点検・評価改善報告書
8	4	5	学校関係者評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4	自己点検・評価改善計画書
8	4	6	学校関係者評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	4	自己点検・評価改善報告書
8	5	中項目	教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)		
8	5	1	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	職業実践専門課程別紙様式4、HP
8	5	21	自己評価結果を公開しているか	4	自己点検・評価表、HP
8	5	22	学校関係者評価結果を公表しているか	4	学校関係者評価委員会議事録、HP

＜自己評価＞適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・自己点検・評価および学校関係者評価の結果に基づき、改善計画書を作成した。期限を定めて改善の効果を検証し改善報告書を作成した。

### ② 今後の改善方策

・今年度は改善計画を後期から実施したので来年度は年度初めから計画に沿って実施していく。

### ③ 特記事項

・特になし。

9 財務			自己評価	エビデンス
9	1	中項目	財務基盤(学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか)	
9	1	1	3	財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書
9	1	2	3	事業活動収支予算書、資金収支予算書
9	2	中項目	予算・収支計画(予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか)	
9	2	1	4	予算書、理事会議事録、評議員会議事録
9	2	2	4	損益月次推移、予算実績月次推移、資金収支

					月次実績推移表
9	3	中項目	監査(財務について会計監査が適正におこなわれているか)		
9	3	1	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4	監査報告書
9	4	中項目	財務情報の公開(私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか)		
9	4	1	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4	HP
9	4	2	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取り組んでいるか	4	HP

<自己評価>適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・物価の高止まり、コロナ明けによる経済活動が活発になることにより、学校運営費用の増加が見込まれる中、学生数の減少による収入減のため厳しい経営状況となることは免れない。経費削減の意識をさらに強く持つ必要がある。

### ② 今後の改善方策

・日本語学科並びに既存3学科の学生募集強化を図りつつ、更なる経費削減を推進していく。

### ③ 特記事項

・特になし。

10 社会貢献・地域貢献			自己評価	エビデンス
10	1	中項目	社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか)	
10	1	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 利用案内ポスター
10	1	2	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3 委託訓練業務関係書類(介護福祉士養成科)
10	2	中項目	ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)	
10	2	1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2

<自己評価>適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

### ① 現状と課題

・本校実習室にて、いきいき百歳体操を週1回実施している。その中で介護福祉学科の授業「社会貢献活動」の一環として、学生がいきいき百歳体操の運営サポートを行っている。  
・公共職業訓練として、介護福祉学科では委託訓練生を10名受け入れている。



・愛と奉仕の精神を身に付け、主体的に行動し地域や社会に貢献できる人材となるよう、学生のボランティア活動を積極的に推奨している。福祉施設や障がい者施設等のボランティア依頼を教員が取りまとめ、学生に紹介するなどして学生と施設等の仲介役をしている。

② 今後の改善方策

・次年度は介護福祉学科に加え、こども保育学科も水曜午前中を「社会貢献活動」を授業とし、介護福祉学科と一緒に学生が主体となった地域に根ざした活動をすすめていく。

③ 特記事項

・今年度は22件のボランティアの依頼があった。そのうち述べ24名の学生がボランティアに参加した。コロナ以降ボランティア活動は行っていなかったが、徐々にボランティア依頼の件数も増加してきた。

11 国際交流				自己評価	エビデンス
11	1	中項目	留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)		
11	1	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	日本語学科業務分掌
11	1	2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3	入管提出書類一式、学則、留学生保険
11	1	3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	留学生の手引き、校務分掌、学生便覧
11	1	4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	JLPT 取得率

<自己評価>適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

① 現状と課題

・2022年4月に一気に入国した留学生が一斉に卒業を迎える。現在、引っ越しに伴う退寮の手続きや進学先へのスムーズな移動について、さまざまな指導や事務処理が行われている。この流れが今後のベースとなるため、問題点が生じるたびに改善策を考え、対応していく。

② 今後の改善方策

・生活支援で留学生トラブル一覧に内容と対策の記録を続ける。

③ 特記事項

・特になし。